

## 第6学年 ESD 国語科学習指導案

奈良教育大学 国語教育専修 勝田南美

1 単元名 『万葉集』っておもしろい!～みりよく発見『万葉集』～

### 2 単元の目標

- (1)『万葉集』の和歌を読んだり聞いたりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
[知識及び技能](3)ア
- (2)『万葉集』や和歌について解説した文章を読んだり、調べたりすることを通して、『万葉集』にあらわれる昔の人のものの見方や考え方、感じ方を知ることができる。  
[知識及び技能](3)イ
- (3)『万葉集』の魅力について考え、自分の思いが伝わるように構成や表現を工夫して文章を書くことができる。  
[思考力、判断力、表現力]Bオ
- (4)言葉が持つよさを認識するとともに、進んで『万葉集』について学ぼうとし、自分の思いや考えを発信しようとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 3 本単元で取り上げる言語活動

和歌の解説書を作成する。

### 4 指導について

#### (1) 教材観

##### ①『万葉集』について

本単元では、『万葉集』の和歌を取り上げる。『万葉集』は現存する日本最古の和歌集であり、上代古典文学作品の中では唯一の和歌集である。『万葉集』の特徴の一つとして、天皇や貴族の他にも兵士や下級官人など、幅広い層の人々が詠んだ歌が収められていることが挙げられる。中世以降の和歌集は、皇族や貴族の歌を集めたものが多く、上流階級において和歌がどのように嗜まれ、役割を変化させていったのか等のことをうかがうことができる。一方で『万葉集』は、詠んだ人の名前がわからない和歌も多く、詠まれた内容も多岐にわたる。だからこそ、児童が一般に和歌というものに対して抱いているイメージを崩し、興味を持ってもらう糸口になり得るのではないかと考える。また、『万葉集』は上代古典文学作品の中で唯一の和歌集であると述べたが、このことは『万葉集』が非常に貴重な資料であることを示している。日本文化の発展を探求するなかで重要な要素である和歌の(現時点での)最も古い形をおさめたものであり、万葉の時代の人々の感覚や生活を色鮮やかに保存し、現代の私たちに伝えてくれるものでもある。『万葉集』の和歌を鑑賞したり、調べたりすることを通して、和歌から万葉の人々の思いや暮らしを感じとり、現代に生きる自分たちと重ね合わせ、比較することで『万葉集』の世界に浸ってほしい。古典世界に浸るという経験は、この先も国語を学習をしていく中で、児童にとって貴重な経験になるのではないと思う。子どもたちが、こうした経験ができること自体の貴重さに気づき、将来、古典や文化継承の担い手となってくれることを願っている。

##### ②和歌について

前述したように、和歌が教養人の嗜みとされるようになってからは、格調高さや優美さ、技巧の有無が評価されるようになっていく。しかし、『万葉集』の中には優美な和歌ばかりではなく、汚物を詠み込んだ歌や言葉遊びのような歌など、ユーモア溢れる和歌が見られる。加えて、『万葉集』の他に、短歌以外の形式をもつ和歌にふれること

ができる古典作品は現状では殆どない。そういった点から、『万葉集』は中古以降の和歌集とは違う視点から和歌の魅力に触れることのできる古典なのではないかと考える。中古以降の優美な和歌と比べると、『万葉集』の和歌の中には、日常の些細なことを歌にしたようなものも少なくない。内容としては俳句に近い歌や思わず笑えてしまう和歌もある。当時の感覚としては、和歌を読むことは現代の SNS に近いのかもしれない。そうした和歌に児童が触れることで、古典や古語に対する忌避感を減らし、和歌に興味を持ってもらいたい。

### ③学習の系統

本単元の和歌・俳諧学習における系統は以下の通りである。各単元は光村図書による。

#### 【小学校第三学年】

「俳句を楽しもう」鑑賞→「短歌を楽しもう(百人一首の歌あり)」鑑賞

#### 【小学校第四学年】

「短歌・俳句に親しもう(一)」鑑賞→「短歌・俳句に親しもう(二)」鑑賞

#### 【小学校第五学年】

「日常を十七音で」鑑賞・作成

#### 【小学校第6学年】

「日本の文字文化(万葉仮名)」、**本単元**

#### 【中学校第1学年】

「百人一首を味わう」鑑賞

#### 【中学校第2学年】

「短歌に親しむ」「短歌を味わう」「短歌の創作教室」鑑賞・作成

#### 【中学校第3学年】

「俳句の可能性」「俳句の創作教室」「俳句を味わう」鑑賞・作成

「和歌の世界」「音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序」「君待つと一万葉・古今・新古今」鑑賞

本単元は短歌の鑑賞から作成への接続をより潤滑にし、短歌と和歌の違いを意識して先の学習ができるような設定になった単元である。

## (2) 指導観

本単元での学習を進めるにあたっての指導・支援等は以下の通りである。

- ① 単元の導入部分では、全学年までの和歌、俳諧学習と接続させるためにこれまでの学習を振り返らせる。第3学年で短歌の鑑賞をした際に百人一首に触れているため、話題として提示することで記憶の想起を促すとともに、本単元で扱う「万葉カルタ」とのつながりを意識できるようにする。また、第5学年では身の回りのものを題材として俳句を作る学習を行う。その際に、生活の中にある5・7のリズムを見つけるという活動を行なっている。これにより、生活のまわりにある5・7のリズムは万葉の時代から親しまれているものだという気づきにつなげたい。短歌と今までに学習してきた和歌の字数が同じことからその違いを問いかけることで児童に関心を持たせる。
- ② 単元の展開部分では、『万葉集』の和歌についてまず全体で鑑賞することで、その後の調べる活動の際の指標をつくる。また、万葉カルタ遊びを2回行うことで、和歌について知る前と知った後で自分の感じ方や和歌の受け取り方が変わったことに実感を持たせる。さらに、一度自分で和歌について調べた上で万葉文化館の方にお話を伺うことでより深い学びを得ることができるのではないかと考える。特に、特徴的なくすりと笑える和歌などを解説していただくことで、児童の古典や古語に対して感じている距離を少しでも縮めたい。

- ③ 単元の集結部分では、和歌の解説書を作るという活動を行う。この活動は、単元の学びの集大成として、それまでに作成したものや収集した情報をもとに作るができるように設定した。図工と連携させて作成した、万葉画のポストカードを用いた招待状の作成も行う。印刷は教員側で事前にしておき、児童が宛名等をすぐにかける状態にしておく。なお、事後指導として万葉カルタ大会を開催するが、これは学校行事に合わせて行う。事前に、ポストカードの他に学校のホームページ等に情報を載せ、参加者を募集する。
- ④ 単元全体を通して、活動の都度、考えたことや感じたことを記述させ記録として残すことで、単元の学習を振り返る際の足がかりをつくり、自身の考えや感じ方の変化を実感できるようにする。

### (3)ESD との関連について

#### 【本単元で働かせる ESD の視点(資質・能力)】

- 多様性…『万葉集』には幅広い層の人の歌があり、様々な内容が詠われている。和歌のなかには短歌だけではなく、様々な形式の歌がある。『万葉集』をモチーフにしたお菓子や商品がたくさんある。様々な『万葉カルタ』や万葉画などがある。
- 相互性…カルタ遊びを通して現在の自分たちも『万葉集』に親しむことができる。様々なかたちで『万葉集』が次の世代へと繋がられている。『万葉集』の和歌をよむことで昔の人々の考え方や思いに触れることができ、今を生きる自分と重ねることで万葉人と自分との繋がりを感じることができる。

#### 【育てたい ESD の資質・能力(態度)】

- つながりを尊重する態度…昔の人々と自分とのつながりを理解する。様々な人が関わって文化や伝統的なものが現代につながり、次世代に繋がられていることに気づく。

#### 【育てたい ESD の価値観】

- 人権・文化・平和の尊重…『万葉集』を通して日本の伝統的な文化や特有の感性に触れ、それらを尊重しようとする。学んだことを誰かに伝えようとしている。

#### 【達成に貢献すると思われる SDGs】

4 質の高い教育をみんなに

## 5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 『万葉集』の和歌を読んだり聞いたりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 [知・技](3)ア ② 『万葉集』や和歌について解説した文章を読んだり、調べたりすることを通して、『万葉集』にあらわれる昔の人のものの見方や考え方、感じ方を知ることができる。 [知・技](3)イ	① 『万葉集』の魅力について考え、自分の思いが伝わるように構成や表現を工夫して文章を書くことができる。 [思・判・表]Bオ	① 言葉が持つよさを認識するとともに、進んで『万葉集』について学ぼうとし、自分の思いや考えを発信しようとする。「学び」

6 指導計画と評価計画(全 10 時間)

時	学習活動 ○教師の発問・予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準、 評価方法等
1	<p style="text-align: center;"><b>第一次 『万葉集』と出会う</b></p> <p>1.『万葉集』をモチーフにしたものについて知る。          ・万葉カルタというものがあるんだよ          ・お菓子          ・万葉時計          ○なんで万葉カルタはこんなにたくさんあるのかな？          ○どうしてこんなに『万葉集』をモチーフにしたものがあるのかな？          ・面白いから、魅力があるから            →『万葉カルタ』は今でも各地で大会が開かれている。            長く遊んでいる人たちがいるから現代にも受け継がれているんだね。            →『万葉集』がいろいろな形で現代に残っているのは、きっとたくさんの面白さやよさがあるからなんだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>☆『万葉集』の面白さやよさはなんだろう？</p> </div> <p>2.『万葉集』について知る。          前学年までの学習を振り返る。          ○こんな勉強したこと覚えている？          ・短歌、俳句          ○どんな特徴があったかな？          ・(短歌は)五・七・五・七・七          ・(俳句は)五・七・五、季語が必要            →生活の中の五・七・五探したよね。          ○『万葉集』は？          ・五・七・五・七・七とか、もっと長い歌もある。          ・百人一首みたいな歌があった。            →『万葉集』にはたくさんの謎があるね。もっといろいろなことを知るために『万葉集』に詳しい人のお話を聞きたいね。          ○どんな人に聞けばもっといろいろなことを知ることができそう？            →専門の人、先生 など</p>	<p>・前提として、『万葉集』という和歌集があることを伝えておく。</p> <p>・単元を通して考える課題であることを示す。          ・前学年までの学習内容を想起させるために、児童が学習・作成した俳句や百人一首の和歌を提示する。          ・五七・七五調の現代へのつながりに結びつけるために、身の回りに五七・七五調のものがあつたことを思い出させる。          ・さまざまな形式の万葉集の和歌を提示する。          ・「春すぎて」の歌を提示して百人一首と違うことに気づかせる。</p> <p>。</p>	<p><b>【知・技】①</b>  <b>ワークシート、</b>  <b>発言</b></p>

## 第二次『万葉集』の和歌を学ぶ

3.『万葉集』についての話を聞く。

①万葉文化館の方に『万葉集』についての話をうかがう。

- ・特に特徴的な和歌
- ・長歌、旋頭歌、仏足石歌
- ・万葉画、万葉ギャラリー展
- ・万葉仮名 など

② 考えたことや感じたことなどをまとめて交流、発表する。

○どんなことが分かった？

- ・(現存する)日本最古の和歌集
- ・1300年くらい前
- ・全部で20巻、約4500首
- ・短歌、長歌、旋頭歌、仏足石歌

→短歌だけではなく、いろいろな歌の形があるんだね。

これらのいろいろな形の歌をまとめて和歌って言うんだね。

→この時代から日本人は五と七のリズムを心地よく感じていたんだね。

→『万葉集』についていろいろなことがわかったね。でも、全部読むのは難しそう。

→「万葉カルタ」というものがあったよね。『万葉集』について学んだ今やってみたら面白いかもね。

4.万葉カルタで遊ぶ。

○遊んでみてどうだった？

- ・楽しかった
- ・難しくてよく分からなかった

○どうすればもっと楽しく遊べそう？

- ・歌の意味がわかるようになればもっと楽しめるんじゃないかな

→『万葉集』の和歌について学んでみよう。

3.『万葉集』の歌を鑑賞する。

①あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

- ・万葉集の代表的な和歌の一例。情景や表現の美しさなど。

②よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見

- ・リズムや言葉選びの面白さ。

③田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける

- ・百人一首との違いなど。

④信濃なる千曲の川の小石も君し踏みてば玉と拾はむ

- ・万葉文化館の方にお話を伺い、メモを取らせる。

- ・特に、短歌以外の和歌の解説と万葉画や万葉ギャラリー展についてお話していただく。

- ・万葉仮名の学習につなげる。

【知・技】①

メモ・ワーク  
シート

- ・万葉カルタの作成元が万葉文化館であることを伝える。

- ・万葉カルタの中からも数首ピックアップしておく。

- ・長歌も取り上げる。

【知・技】②

ワークシート、  
発言

- ・鑑賞した和歌以外から選ぶようにする。

	<p>・地域に係る歌。</p> <p>⑤天地の分れし時ゆ神さびて高く貴き駿河なる富士の高嶺を天の原ふりさけ見れば渡る日の影も隠らひ照る月の光も見えず白雲もい行きはばかり時じくそ雪は降りける語り継ぎ言ひ継ぎ行かむ富士の高嶺は</p> <p>・長歌。</p> <p>→他にはどんな和歌があるのかな?調べてみよう。</p> <p>4.『万葉集』の和歌について調べる。</p> <p>①班で決めた和歌の中から一人一首選ぶ。</p> <p>②現代語訳や歌の内容、背景、歌人、思いや表現の仕方等について調べる。</p> <p>③ 調べたことを発表する。</p> <p>・パワーポイント等を用いて調べた内容をクイズにするなど、発表の工夫を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>教科横断的な学習【図工】</b></p> <p>●万葉画を描いてみよう</p> <p>①自分が担当する和歌をイメージした絵を描く</p> <p>②万葉画ポストカードをグループで1枚作成する。</p> </div>	<p>・「万葉カルタ班」と「長歌班」、「地域に関わる歌班」など、グループ毎に調べる分野を分けておく。</p> <p>・鑑賞の仕方がわかるように観点立てて説明していく。</p> <p>・タブレットや関連書籍などを用意しておき、児童が様々な媒体から情報を集められるようにする。</p> <p>・図書館を活用する。</p> <p>・鑑賞や調べる際の観点を提示しておく。</p> <p>・ポストカード作成時には絵係、文字係等役割分担して作成しても良いと伝える。</p> <p>・ポストカードにはQRコードを掲載し、その和歌に関する情報が見られるようにする。</p>	<p>「学び」① ワークシート、<u>発言</u></p> <p>【知・技】① <u>発表</u>、<u>発言</u></p>
7 0	<p style="text-align: center;"><b>第三次 みりよく発信!『万葉集』</b></p> <p>6.これまでの学習を振り返る。</p> <p>①『万葉集』の面白さやよさを考える。</p> <p>○『万葉集』にはどんな面白さやよさがあったかな?</p> <p>②自分の担当した和歌の魅力を考える。</p> <p>○改めて自分の担当した和歌を見ると、どんな魅力が見えてくる?</p> <p>→せっかくこんなに『万葉集』についていろいろ知って、面白さやよさが分かったのに自分たちの中だけにおさめておくのはもったいない気がするね。</p> <p>④ 考えたことや感じたことを記録、交流、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>☆『万葉集』の面白さやよさを伝えるために、私たちにできることはなんだろう?</p> </div> <p>7.『万葉集』の魅力発信の方法を考える。</p> <p>○できることは?</p> <p>・万葉カルタ大会を開く</p> <p>・調べたことを発信する</p>	<p>・これまでに自分が書いてきた、感想や考えたことのメモを振り返りながら考えるように促す。</p> <p>・改めて考えた、担当和歌の魅力についてメモを取らせる。</p>	<p>「学び」①ノ <u>シート</u>、<u>発言</u></p>

	<p>→調べた和歌の情報を解説書にまとめよう。</p> <p>○誰に発信したい？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族</li> <li>・地域の人</li> <li>・学校の人</li> </ul> <p>→万葉カルタ大会を開催して、作成した和歌の解説書を配布しよう。大会に来てほしい人を招待しよう。</p> <p>8.和歌の解説書をつくる。</p> <p>①今までに作成した資料をまとめて解説書にする。</p> <p>②万葉文化館の方に作成した解説書を見てもらい、アドバイスをいただく。</p> <p>⑤ アドバイスをもとに改善する。</p>	<p>・グループで活動させ、お互いの原稿を見てアドバイスをし合えるようにする。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>①<u>解説書</u>、<u>原稿</u></p>
<p><b>事後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●万葉ポストカードを送り、大会に招待する。</li> <li>●万葉カルタ大会を開催し、解説書を配布する。</li> <li>●万葉ポストカードにお礼を書き、和歌の解説書・オリジナル万葉画のデータとともに万葉文化館に送る。</li> </ul>	<p>・ポストカードは実際に郵送せずに手渡しても良いと伝える。</p>	

